

## <センター等>

別紙2

### 全学内部質保証委員会の意見書

I 対象となるセンター等  
災害ボランティア活動支援センター

II 自己点検、外部評価実施時期  
令和5年1月

### III 評価結果

1. 自己点検・評価は適切に実施されたか  
適切である
2. 外部評価は適切に実施されたか（外部評価を実施している場合）  
（該当なし）
3. 活動は本学及びセンター等の使命・目的に沿ったものであるか  
適切である
4. 活動によって質の向上が図られているか  
図られている
5. 外部評価における意見への対応（自己点検・評価での課題への対応）は適切か  
おおむね適切である
6. 専任教員の配置は妥当か  
（該当なし）
7. その他、特記すべき点・改善を要する点等  
特記すべき点  
・限られた構成員・予算の中で、災害ボランティア研修会開催や災害ボランティア論開講を行っている。  
  
改善を要する点  
・災害ボランティアへの支援活動や、災害ボランティアの学内周知などの情報発信（情報発信の強化）を検討いただきたい。  
・管理運営に関する規定等（センター会議要項等）を確認することができませんでした。未整備の場合は、整備していただきたい。

8. 上記を踏まえ、センター等の改廃についての意見

「災害」ボランティア活動に専念する現況の活動について、令和4年8月4日に発生した豪雨災害における支援が学内から延べ10名の参加に留まっていること、ボランティア活動への参加が「ふくい地域創生士」の認定要件として考慮されることを踏まえると、再度、本学学生の積極的なボランティア活動を呼びかけるため、ボランティア活動の対象を「災害時」に限らず、一般的なボランティア活動に広げ「ボランティア活動支援センター」に改組することを検討すべきではないか。

その際には、固定化されつつあるメンバーに若手事務局職員を加える等、もう少し関係する教職員を増やした上で、実質的な議論をすべきと考える。